

設問番号	出題した問題		設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式		岡山県(公立)		全国(公立)	
	年度	設問番号			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)
1 (1)	H26	1 (1)	示されたかけ算の中で積に同じ数字が並ぶものを選ぶ	示された場面から計算の結果の見通しをもち、(2位数)×(1位数)の筆算をすることができる	3A (3)ア										94.6	0.3	94.6	0.3
1 (2)	H26	1 (2)	二人の説明を基に、 $37 \times 24$ の積が888になることを書く	示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述できる	2A (1)エ 3A (3)ウ			4D (3)ア							54.6	5.8	55.2	6.0
2 (1)	H27	1 (1)	平行四辺形を構成することができる、四つの辺の組み合わせを選ぶ	平行四辺形の性質を基に、平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを理解している				4C (1)イ							94.9	0.1	95.2	0.1
2 (2)	H27	1 (3)	二組の道のりが、それぞれ等しくなることを書く	示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見だし、その図形の性質を記述できる				4C (1)アイ							28.8	12.8	27.7	14.3
3 (1)	H21	3 (1)	目的の時刻までに着くバスの発車予定時刻を時刻表から選び、その時刻を書く	与えられた条件に合う時刻を、筋道を立てて考え、時刻表から選択することができる											34.6	8.3	39.8	6.5
3 (2)	H21	3 (3)	2種類の品物を買うとき、与えられた条件では、ハンカチを買うともう1種類の品物を買えないわけを書く	情報を整理選択し、筋道を立てて考え、示された判断が正しい理由を記述することができる											33.6	12.1	33.9	9.2
4 (1)	H26	4 (1)	㊦のリズムを3回目に演奏するのは何小節目かを書く	繰り返されるリズムの規則性(周期)を見だし、それを基に小節数を求めることができる	1A (1)イ			4D (1)ア							62.8	2.1	62.2	1.7
4 (2)	H26	4 (2)	二人の㊦のリズムが重なる12小節目の12はどのような数であるかを書く	二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述できる	5A (1)イ										57.1	14.2	60.5	12.1
5 (1)	H20	5 (1)	学年ごとの身長を表した表から、5年生から6年生までの身長の伸びを求め、棒グラフに表す	学年ごとの身長を表した表から身長の伸びを求め、その伸びを棒グラフに表すことができる											65.4	4.4	68.6	4.1
5 (2)	H20	5 (2)	身長の変化を表す折れ線グラフの一部分と、身長の伸びを表す棒グラフの一部分を比べて、その違いを書く	グラフの特徴を基に2つのグラフが対応していないことをよみとり、違いを記述することができる											18.5	23.5	19.4	21.5
5 (3)	H20	5 (3)	与えられた折れ線グラフが、誰の身長の変化を表したものかを考え、当てはまる人の身長の伸びを表している棒グラフを選ぶ	グラフの特徴を基にグラフの対応を考え、与えられたグラフが誰のものかを判断することができる											25.6	12.0	28.0	11.2

※正答率、無解答率については、当該年度の全国学力・学習状況調査の結果を掲載しています。